

平成14年度事業報告

1. 九州におけるヒューマンメディアの創造に関する調査研究

i. 新規プロジェクト創出事業

市場性、事業性、独創性を持ったプロジェクトの創出を目的とした研究テーマの発掘、提案活動により、企業、研究機関、教育機関と研究活動を行い、人的ネットワーク作りを含めた集積活動を実施した。

医療情報技術に関する調査研究

・北九州医療IT研究会の発足及び事務局の設置

・医療情報システム研究開発に向けたコーディネートの実施

遠隔教育技術に関する調査研究

・JICAのJ-Net環境調査

・JICAへの実験の提案、支援

その他先端技術動向に関する調査

ii. 中小企業等高度化支援調査

ITを巡る経済・社会構造の変革にいち早く対応し、地域の産業振興、市民サービスの向上を図り、地域間競争力を確保するため、新規事業展開に意欲ある地場企業の事業高度化を支援するため以下の調査研究を行った。

・インキュベーター・マネージャー米国研修プログラムへの参加

・インキュベーション事業に関する調査研究

・オンラインショッピングサイトにおける初回購買促進システムに関する調査研究

iii. 次世代情報通信基盤調査研究

次世代情報通信基地を実現させるため、光・電波等を通信媒体とする次世代情報基盤について、情報通信高度飛行隊研究会で検討したシステム化プランの事業化プロセスについて検討を行った。

iv. ヒューマンメディア調査研究

人間の感性を活かせる新しい情報技術を提案するために、技術動向の調査を行い、建物施設における省エネルギーと快適性についてヒューマンメディア技術の応用可能性の調査研究を行った。

v. 情報通信技術高度化調査研究

北部九州地域における映像メディア(コンテンツ)開発の拠点確立と、地域におけるマルチメディア産業の活性化を目的として、早稲田大学国際情報通信センターと高度情報通信技術の共同研究開発と制作を行った。

vi. 情報通信研究開発施設調査研究

北九州市の公的IT関連施設の調査などを実施し、設置主体の異なる施設を総括的に紹介し、施設のPR、利用促進支援を目的とした施設ガイドブック「Kitakyushu IT Report 2002」を制作した。

vii. 情報倉庫調査研究

前年度に引き続き、北九州市へ情報倉庫を誘致するための調査を行った。特に本年度は、情報倉庫事業の実施主体である(株)ワンビシアークイブズの北九州進出を視野に、北九州 e-PORT構想の中でのIDCとストレージマネージメントセンター(情報倉庫)との提携のあり方の研究や自治体の文書保管に関する調査研究を行った。

viii. **北九州e-PORT調査研究**

北九州e-PORT構想の推進実現に向け、「北九州e-PORT推進協議会」を設立し、構想の推進母体である同企画運営委員会の設置等にもプロジェクトの中核的機関として積極的に参画した。

- ・第1回「北九州e-PORT推進協議会」総会の開催
- ・北九州e-PORT企画運営委員会」会議の開催
- ・北九州e-PORT推進協議会」会員企業交流会の開催
- ・IT2002テクノフェアへブース出展
- ・ABXデザイン研究会会議の開催

ix. **地域情報関連企業共同調査研究**

地域の情報サービス関連企業が組織する北九州情報サービス産業振興協会(KIP)の事務局を研究開発課内に設置し、協会の部会・総会活動を支援するとともに、新規事業展開の参考となる市場動向、技術動向等の調査を行った。

x. **北九州地域情報ネットワークのあり方に関する調査研究**

北九州地域情報ネットワークを活用している北九州市庁内ネットワークの現状等に関して分析を行い、今後の活用等を踏まえた地域情報ネットワークのあり方について調査、検討を行った。

xi. **次世代情報通信技術を活用した情報産業の集積化調査研究**

インターネットの急速な増加の状況下におけるコールセンターの今後の発展形態について調査を行った。

2. **九州におけるヒューマンメディアの創造に関する研究開発**

i. **先端技術分野産学共同研究モデル事業**

英国クランフィールド大学北九州研究所のプロジェクト開発業務、産学共同研究開発プロジェクトのモデル事業創出について運営支援及び研究者の研究支援を行った。

・次世代型の建築環境・エネルギー管理に焦点を当て、英国クランフィールド大学北九州研究所と国内及び地元企業との共同研究を中心に研究会を設置して検討を行った。

ii. **先進的情報システム研究開発**

平成14年度デジタルアーカイブ構想事業である「地域産業関連技術等の高精細デジタル映像によるアーカイブソフト制作事業」が(財)デジタルコンテンツ協会の助成事業として採択されたことに伴い、「セラミックスが生み出す九州の伝統と未来技術」というテーマで早稲田大学国際情報通信研究センターと高精細デジタル映像によるアーカイブソフトを共同制作した。また、協会の制作委託により、上記作品のDVDパッケージを作成した。

iii. **高齢者在宅生活支援システムの実証運用**

「高齢者在宅生活支援システム実証運用」の最終年度として、各区保険福祉センター、市立病院等の公的施設で実証実験を行った。

iv. **研究者育成型産学共同研究開発**

若手研究者育成を視野に入れた、確度の高い研究開発事業等を集約し、継続研究を前提に以下の研究を行った。

早稲田大学国際情報通信研究センターとの共同研究

・北九州学術研究都市にあるギガビットネットワークで接続された高臨場感遠隔教

育システムの構築に関する研究、試験運用。

JICA-Netを活用した国際間遠隔モデル講義の実施（日本－マレーシア）

・北九州学術研究都市に整備された情報通信インフラを活用した遠隔教育モデル講義の実施。

微生物同定用DNAチップ設計システムの研究開発

・既存の限られた情報源を用いて、有効な網羅的解析を可能とするDNAチップの設計プロセスの開発。

回転機械の遠隔診断の実用化に関する研究開発

・回転機械の遠隔診断技術の研究開発を目的とした技術に関する調査研究を行い設計仕様書を作成した。

v. 統合情報システム実証研究

北九州学術研究都市における統合情報ネットワークシステムの運用コンサルティングと、システム運用評価を行い、次世代情報通信基盤の方向性について研究するための実証研究を実施した。

高速通信回路を利用した高精細映像日韓ビジネス商談会の実施

・早稲田大学国際情報通信研究センターとの共同研究により国際間ビジネス商談会の実験実施。

ブロードバンド・マルチキャストテレビ会議システムの開発、実験の実施

・北九州市 2月定例議会の中継実験の実施

vi. ギガビットネットワーク等を活用した研究開発

通信・放送機構がネットワーク社会の早期実現に向け整備した共同利用型研究開発施設を活用し、企業、大学、研究機関と連携して超高速通信技術および高度アプリケーションについて実証研究を実施した。

・九州・国際テクノフェア2002シンポジウム共催

・周望学舎「高度情報処理体験教室」開催

・北九州ギガビットネットワーク・シンポジウムin熊本開催

・全国青年農業者会議支援

3. 九州におけるヒューマンメディアの創造に関する 情報の収集・提供

i. 関連情報等を提供する情報誌の発刊

・九州ヒューマンメディア関連情報等の記事を載せた情報誌「HU-DiA」を発刊した。

ii. 最新の情報通信技術等の技術動向についての情報収集

4. 九州におけるヒューマンメディアの創造に関する 内外関係機関との交流・協力

i. 日本と台湾を中心としたアジアにおける新しい技術及び人材交流・共同研究を促進し新産業の創出を推進

・台湾、英国、日本の三国間における産業技術フォーラムを開催した。

ii. 関係機関等と協力して、地域のデジタルコンテンツ産業の振興・育成への取り組みを行う

iii. 日本・台湾を中心としたアジアにおける、新しい技術および人材交流・共同研究を促進し、新産業の創造を推進する。

5. 九州におけるヒューマンメディアの創造に関する普及啓発

i. 各種シンポジウム、フォーラム等の開催。

- ・KIT&Eフォーラム2002の開催
- ・エコデザイン北九州会議の開催
- ・SOC設計概論の開催

6. その他

i. **人材育成事業**

HMC人材育成事業

・デジタルハイビジョン等の映像産業の振興を図るため、高精細デジタル映像編集装置、マルチメディア編集装置を活用して、映像系・音声系の総合研修を実施した。

共同研究

・民生用ハイビジョンカメラを活用して手術手技立体映像化の教育ビデオを作成した。

北九州IT技術者養成大学校

・コールセンター事業に対して安定した人材を供給すると共に雇用のミスマッチの解消を行うため、コミュニケーター養成研修を行った。

ii. **集積活性化関連事業**

地域産業の集積活性化のため、マルチメディア・情報通信関連産業への参入を目指す中小企業、ベンチャー企業に対しデジタルハイビジョン編集室およびDVDオーサリングシステム(マルチメディア編集室)の設備開放を行った。

iii. **HMCビル運営事業(特別会計)**

ヒューマンメディア創造センタービルの賃貸及び管理運営事業。
